

令和5年度第1回 熊本県企業局経営評価委員会

○日時：令和5年8月25日（金） 10:00～11:32

○場所：ホテル熊本テルサ 2階「りんどう・つばき」

1 開会

司会（事務局：米田政策調整審議員）

それでは、定刻となりましたので、ただ今より令和5年度第1回熊本県企業局経営評価委員会を開催いたします。

2 挨拶

司会（事務局：米田政策調整審議員）

開催にあたり、企業局長の竹田が御挨拶を申し上げます。

<局長挨拶>

3 委員紹介

司会（事務局：米田政策調整審議員）

本日は、今年度、第1回目の委員会となりますので、改めて委員の皆様の御紹介をさせていただきますと思います。お手元に配付しております出席者名簿の順番に沿って御紹介させていただきますので、恐れ入りますが、その場に御起立いただきますようよろしくお願いいたします。

委員長の檜山 隆 様

<檜山委員長 挨拶>

池上 恭子 様

<池上委員 挨拶>

井上 照教 様

<井上委員 挨拶>

城後 文代 様

<城後委員 挨拶>

関 智弘 様

<関委員 挨拶>

司会（事務局：米田政策調整審議員）

ありがとうございました。なお、事務局につきましては、出席者名簿での紹介に代えさせていただきます。

4 議事

司会（事務局：米田政策調整審議員）

続きまして、議事に入りたいと思います。この後の議事進行につきましては、檜山委員長にお願いいたします。

檜山委員長

先程、企業局長からお話がありましたように、今回は議題が2件、報告が1件ございます。議題・報告ごとに事務局から説明していただきまして、その後委員の皆様から御意見・御質問をいただくということにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それから事務局からの説明につきましては、委員の皆様方には事前の説明があつておりますので、なるべく簡潔に説明していただいて、あとの時間を御質問・御意見を受けることに充てたいと思います。

それでは最初の「議題1」ですが、「熊本県企業局経営戦略2020に係る令和4年度の実績評価」について、事務局の方から説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

■議題1 熊本県企業局経営戦略2020（第5期経営基本計画）に係る令和4年度の実績評価について

事務局（総務経営課 高松主幹）

<資料に沿って説明>

檜山委員長

どうもありがとうございました。ただ今事務局の方から「熊本県企業局経営戦略2020に係る令和4年度の実績評価」について説明をいただきましたが、まず委員の皆様から御意見・御質問等がございましたらお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

井上委員

すみません。簡単な質問をさせていただきます。

私も数年委員をさせていただいておりますが、リニューアルが終わったとか、工業用水の新しい可能性が見えてきたとか、駐車場は非常に絶好調だということで、先行きの明るい兆しが見えてきたのではないかなという印象を受けております。

その中の細かいことで恐縮なのですが、損益の中でどうしても費用が計画より上回っているという実績が、特に電気と工水の方でありまして、計画より上回っているというのは、実際に今物価等が上がっていますので、例えば積算上の費用の単価が上がった等といった影響がこの中にもあるのかということをお聞かせいただきたいと思います。

もしそういった影響があるのだとすれば、今後の計画の立て方にも影響を見込まれるのかということをお聞きしたいと思います。以上です。

檜山委員長

それではよろしく御回答をお願いしたいと思います。

事務局（総務経営課 田尻主幹）

企業局の田尻と申します。回答いたします。

計画と実績の差及び実績には物価の変動分が含まれているのかという御質問だったかと思えます。実績には物価の変動等を含んで計上させていただいております。

計画に物価の影響を盛り込んだ方がよいのではないかと考えてございますが、今後計画を作成する際にはその点の検討も含めたところで計画を作成したいと思っております。以上でございます。

檜山委員長

それではその他に御質問・御意見等はございませんでしょうか。

池上委員

池上でございます。私がお尋ねしたいのは、一番優等生である有料駐車場事業について、項目で言うと「施設や設備の適切な維持管理」というところで、給水設備ということで安全・安心には直接関係しないとは思いましたが、計画的な維持補修が入札の不調によって進んでいないということが少し気になりましたし、どういう状況なのかということをお尋ねしたいということと、それからその下の「次期設備更新を見据えた活用方針及び新たな駐車場整備の検討」だけがB-ですね。

とても残念なのですが、この項目も熊本市との調整等色々あって今後の進め方が難しいのかなというような感想を抱きました。何かその点について方向性というか検討中のことがあればお聞きしたいと思います。

事務局（工務課 三浦課長補佐）

企業局工務課の三浦でございます。まず「施設や設備の適切な維持管理」の部分のお話でございますけれども、昨年度は入札不調が続いたということでございます。業者も数多くの仕事を抱えていたという事情があったようでございまして、そういう点を含めてタイミングが合わなかったというところもあったかと思えます。

もう一つは、こちらに書いてありますように、他の設備の改修を今後予定しており、そういった改修と連携しながら行う方が効率的というところも考慮いたしまして、今回は見送るという形を取らせていただいたところでございます。

事務局（総務経営課 丸山審議員）

2点目の御質問の「次期更新を見据えた活用方法の検討」というところで、達成度もB-という評価をさせていただいているところなのですが、有料駐車場事業は、先生の方からも冒頭お話いただきましたように、優等生というような経営の状況でございます。

今現在、適切に維持管理を行っていけば、あと15年程度は利用可能ではないかと見ているところでございます。そういった中で、先程御報告申し上げましたように、コロナ禍

で利用状況も一旦落ち込んだということもありながら、昨年度及び今年度に入りましてコロナ禍前の状況に大分近づきつつあるというところでございます。

現状、交通混雑緩和等を含めまして、県として貢献できる部分もあるのかなと思っております、当面は引き続き運営していくと思っておりますところなのですが、今後のあり方ということに関しましては、池上先生からお話がありましたように、熊本市中心市街地の駐車場のあり方という部分で、他の駐車場あるいは熊本市との色々なやり取りを進めさせていただきながら、15年ということでは胡坐をかくということではなく、先々を一歩一歩見つめながらそのあたりの検討を進めさせていただければと考えているところでございます。以上でございます。

檜山委員長

他に御意見・御質問はよろしいですか。

関委員

御説明ありがとうございました。順調に進んでいる事業が多くて安心しました。毎年私が聞いているところなのですが、技術者の方の人材確保について質問があります。

初めてインターンシップをされたということで、どのような内容で参加者の方はどれくらいいらっしやったかということをお聞きしたいのと、2名の方を新規採用できたということで良かったと思ったのですが、受験者数はどれくらいだったのかを教えてください。

事務局（米田政策調整審議員）

まずインターンシップでございますけれども、土木部と合同で行いまして、5名の参加だったと記憶しております。内容としましては、企業局の概要であったり、発電総合管理所、あるいはリニューアルの工事場所を見せたり等ですね。

最初ということで学生さん達もどちらかと言うと工事現場や建築等の御希望もございましたので、企業局の認知度、そういったものを知っていただくということで現場案内等をさせていただきました。

それと令和5年度の2名についてですけれども、受験者数は全部で9名でございます。最終的に2名という形でございます。今の受験者数は知事部局での採用も含めてということで、知事部局は別に大学卒業1名を取っております。

関委員

ありがとうございます。それなりに受験者も多くて、その中から選ばれた2名ということなので良かったと思います。

最後に1点意見なのですが、前回事前説明で伺ったところによると、技術者の方の年齢構成に少し偏りがあるということでしたので、資料にも書いていらっしやいますが、民間経験者の採用や中途採用を前向きに御検討いただければと思います。よろしくお願ひします。

事務局（米田政策調整審議員）

ありがとうございました。今年の採用につきましては、民間採用を1名予定しておりますが、今のところ2次の合格が2名、受験者が5名でございました。ちょうど年齢の幅と言いますと、30代が企業局のいわゆるプロパーの技術職の大体15%ということで、少し低い状況でございます。そこを補うという形で募集しているところです。今後ともよろしく申し上げます。

城後委員

城後でございます。聞きたいことは大体先生方が色々と質問されて、この3本柱に対して本当に頑張っているというのを、説明を聞いて感じました。

今、関先生がおっしゃったように、電気事業の中でもやはり今後を見据えて若い人達に継承していくということも踏まえて、是非インターンシップ等を行いながら人員確保の方をしていただければと思っております。

それと保有資産の適切な管理ということで、八代市に無償で譲渡をされたということで、実際そのようにして地域貢献や、その地区の人達のイベントといったものに参加されたり、交付金を出したりすることはすごく良いことだと思います。

少し感じたのは、例えば地域のイベント等に出られたときに企業局のブースみたいなものを設けられて、「企業局はこういう活動をしています。」「ダムはこのような場所にあつて、こういった活用をしています。」と、イベントで行くところで企業局のPRを行ってほしいと思います。

そして一般会計にも多くの金額を繰り出していらっしゃる。熊本県にはこれだけ収益を出している課があるのだということを県民の皆様にお知らせするとともに、公募された熊本県企業局のマークを広く一般の人に知らしめてほしいと思います。

それと有料駐車場事業についてですけど、私は中心の商店街におりますので、たまに抜き打ちで見に行くのですよ。御手洗いの清掃の状況とか、待合室はきちっと清掃されているとか、たまに待合室で居合わせた方に「どうですか、県営駐車場は。」というようにモニタリングをしてみたりするのですけど、アンケートも、合わせて90%以上「良い」という評価というのは、確かに現地を見てそう思いました。御存じか分からないのですけれども、コロナ禍で御手洗いを利用したときに、ドアの開け閉めは自動ドアではありませんので、足で取手を触らずに開け閉めできるようになっていたのですよ。指定管理者の方が時代の流れに合わせてやっていたらいいのだなと思いました。

質問は先生方が聞かれたので、私は自分が感じたことを述べさせていただきました。頑張ってください。

檜山委員長

どうもありがとうございます。それでは私の方から細かいところもあるかと思いますが、2、3質問させていただきます。その前に一応3つの事業をされていて、2つの事業につきましては黒字化されていますが、あとの工業用水道事業につきましてはまだ努力が必要であると思っております。

まず、電気事業ですが、緑川水力発電所のリニューアル工事の工期延長により発電再開

が遅れたということですが、どういう理由で工期が延長したのか教えていただければと思います。

それともう1点が、先程の関さんのご質問にも関わりがあるのですが、人材の適正確保という中で、今後の課題のところに民間経験者の採用を検討すると書いてあります。対象となる民間経験者はどういった分野の人を考えているのかということをお教えいただければと思います。電気事業はその2点でございます。

事務局（伊藤工務課長）

まず御質問いただいている1点目の、リニューアルでの工期の延長がどういう理由かということでございます。

様々ありまして、まず1点目は、新型コロナでございまして、緑川第二発電所の着工が1か月半程度遅れたということがございました。同じく緑川第二発電所でございますが、これは昨年度も御報告させていただいたとは思いますが、業者による施工ミスがございまして、それで工期が遅れました。

それと細かい点ではございますが、資材不足による作業の遅れでしたりとか、あとこれは当初の話でございますが、業者が全部決まりまして再度工程調整を行った結果、どうしても土木工事を中心に計画よりも長くかかったというところもございまして、本来当初であれば令和3年度に完了する予定だったのですけれども、半年以上遅れてしまったというところがございます。以上でございます。

事務局（米田政策調整審議員）

民間経験者関係についてお答えいたします。要件といたしましては、昭和30年4月2日以降に生まれた者と民間経験が4年以上ある者ということになっております。

そこで、大学を卒業して民間の電気事業者等といったところに勤務された方を想定しております。

檜山委員長

関連企業として電気事業や発電所とかそういったところに関係のある人を対象として検討するというところでよろしいですか。

事務局（米田政策調整審議員）

受験資格自体はどこの会社に在籍していたという条件はございません。そこは全く関係なく、先程言いましたとおり民間経験が4年以上あるということでございます。

檜山委員長

ありがとうございました。工業用水道事業ですが、コンセッション方式に移行して経費を節減するというので、順調に経費は節減されていると考えてよろしいのでしょうか。

事務局（総務経営課 田尻主幹）

企業局の田尻です。コンセッションを導入して2年が経ちました。この経費の節減は、

更新工事の削減が一番大きなところでございます。

令和4年度から工事が始まったところですが、半導体の部品の納品の遅れによって工事が若干延期しており、まだ経営改善の効果が見られていないというところがあります。

また、総括で書いているのですが、効果は減価償却費によって現れてくるので、導入当初はなかなか効果が出にくいところがありまして、20年経ってから効果が出てくるのかなと思っております。

檜山委員長

どうもありがとうございました。工業用水道事業につきましては、3つの事業がありまして、苓北火電への大口給水によって苓北工水は安定して黒字化されていると思いますが、残りの八代と有明の方で、八代につきましては先程の御説明にありました木質バイオマス発電所への工業用水の供給が始まると黒字化されると考えてもよろしいのでしょうか。

事務局（総務経営課 田尻主幹）

八代バイオマスが今年度中に運転することで、八代は大分回復するのですけれども、有明で言うと竜門ダムの負担金がまだ3億円ほど残っておりまして、工水全体として黒字化というところまで到達できるかどうかは分かりません。

檜山委員長

それと戦略目標2の方ですけれども、「新規事業に挑戦」の中に新規水力発電所の開発として、3か所に候補地が絞られたということですが、この3か所というのは、ダム式の発電所ではなくて、流れ込み式の発電所と考えてよろしいですね。

事務局（伊藤工務課長）

担当しております工務課でございます。委員長御指摘のとおりでございます。

檜山委員長

私の質問は以上です。委員の皆さんから他に追加で御質問・御意見等ありましたらお受けしますが、よろしいでしょうか。

それでは次に議題2の「アクションプランⅡの作成」について、事務局の方から説明をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

■議題2 熊本県企業局経営戦略2020「アクションプランⅡ」の作成について 事務局（総務経営課 高松主幹）

<資料に沿って説明>

檜山委員長

どうもありがとうございました。それではただ今御説明いただきました「アクションプ

ランⅡの作成」について、委員の皆様から御意見あるいは御質問等を受けたいと思います。よろしくお願ひいたします。

御意見・御質問等ございませんでしょうか。それではまず私の方から質問させていただきますが、まず戦略目標2の電気事業の中で、アクションプランⅠでは目標達成に向けた取組みの④が「ITの活用」とありまして、アクションプランⅡの中では「DX、デジタルトランスフォーメーションの推進」ということで、さらに高度なレベルに移行するということと理解しているのですが、デジタルトランスフォーメーションを上手く使いこなすためには組織整備や人材を確保する必要があるかと思うのですけれども、そのような点については何か考えておられることがありましたら、教えていただきたいと思います。

事務局（米田政策調整審議員）

DXの推進につきましてですけれども、こちらの取組みの中で特に今回頑張っていきたいと思うのが、ダム・発電所の保安管理システムの導入ということです。今実際の現場では紙で付けている記録をタブレットで入力してリアルタイムに反映するものと、ペーパーレス、フリーアドレス制ということですが、実は企業局の定例会議を毎月1回行っており、その会議は既にペーパーレス会議でモニターに映して実施しております。

また、公営企業会計システムの方もハンコレスを目指しております、令和8年度を目標にシステム改修をやっているというところでございます。

それに対する人材確保ということでは、各種研修等を行っておりますし、幸いにしまして、実は新規採用職員のうち、高卒が3名とも情報学科出身ですので、そうした若い人材とも協力して力を入れていきたいと思っております。

檜山委員長

DX推進にあたって色々なソフトウェア等も必要になることもあると思うのですが、そうしたものは外注されているのか、企業局の方で作られるのか、どうなっているのでしょうか。

事務局（米田政策調整審議員）

外注でございます。

檜山委員長

その他に、戦略目標3ですけれども、先程、城後さんの方から御意見もございましたように、県に企業局があることの見える化が、大分進められてきているとは思いますが、独立採算性の事業体として県に企業局があり、電気事業等で収益を上げて活発に活動している優良企業であるということを県の皆さんに知っていただければ本当に良いことだとも思っています。

知り合い等に聞くと、企業局というものがあることを知らない友人等もおりますので、なるべく色々な機会を見つけて、「県には企業局があり活発な活動を続けていて県民の皆さんに貢献しているのだ」ということをよく見えるようにしていただければ、本当にありがたいことだと思います。

それでは他の委員の方でアクションプランⅡにつきまして、御意見・御質問等ございませんでしょうか。

関委員

細かいところなのですけれども、工業用水道事業のアクションプランⅡについて、コンセッション事業の円滑な運営による経費削減を方向性として出したうえで、取組内容としては更なる経費の節減という形で、かなりコストカットを強調した書き方になっているのですが、先程のお話を聞いていると、効果が出るには結構時間が掛かるということですので、そこまで強調しなくても良いのかなと思います。

むしろコンセッションはまだ始まったばかりですので、色々と事業者の方とのやり取りや円滑な運営の方に真に力を入れてやっていただけると良いかと思いました。以上です。

檜山委員長

ありがとうございました。

事務局（馬場総務経営課長）

総務経営課でございます。先程、委員長と城後委員の方から企業局への応援ということで御意見いただいております。お話ししましたとおり、人員確保に大分苦勞しております。企業局の知名度も大分低いというところもございますので、御意見いただきましたように色々なイベントの際にブースを出す等、機会を捉えて企業局の知名度アップに努め、ひいては人材確保及び企業局の経営基盤強化ということにつなげて参りたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。ありがとうございました。

檜山委員長

他に何かございませんでしょうか。

それでは次の報告事項の方に移りたいと思います。「有明工業用水道の未利用水を活用した新規給水に向けた取組み」につきまして、事務局の方から説明をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

■報告 有明工業用水道の未利用水を活用した新規給水に向けた取組みについて 事務局（総務経営課 高松主幹）

<資料に沿って説明>

檜山委員長

どうもありがとうございました。ただ今御説明いただきました「有明工業用水道の未利用水を活用した新規給水に向けた取組み」について、委員の皆様から御意見・御質問等をまず受けたいと思います。よろしく願いいたします。

御意見・御質問等はいかがでしょうか。それでは私の方からいくつか質問させていただきます。

3 ページにイメージ図がございます。まず教えていただきたいのは、竜門ダムから農業用水のパイプラインが伸びていて、その下の方に想定給水先ということで黄色のラインが引いてありますが、企業局でつくられるのはこの部分だけを考えているということでしょうか。農業用パイプラインの改修や、さらに何らかの整備をするということではなく、黄色のライン部分だけを追加でつくるといえることですか。

事務局（総務経営課 丸山審議員）

お答えさせていただきます。まずこの農業用パイプライン、これは模式図ですけれども、この赤いルートが現在国の方で既に敷かれているというところがございます。私どもでその先どのような工事を行うのかということですが、このいずれかの場所からまず水を分水しないと行けません。

分水しまして、さらにその水を浄水しないと行けないということで、浄水場を作ります。浄水場を経由して、浄水した後に想定される給水先の方にお送りしないと行けませんので、そこからまた配管するというところがございます。

ここには非常に簡単に書いてあるのですが、先生がおっしゃいましたように、想定給水先に対して、この黄色の矢印がありますけれども、配管という意味で、仮にここで分水するのであれば、この黄色の矢印の部分を工事させていただくということです。

檜山委員長

これは既存の農業用パイプラインに対する手当はせずに、新たに工業用水としてT S M C等に供給する水を準備するための設備を作るということで良いのですよね。

事務局（総務経営課 丸山審議員）

今の段階では特別な手当、要するに例えば既存の管を大きくすることは、現役で使われている管でございますものですから、多分そう簡単にはいきませんので、具体的に既存の管をまず通せるかどうかということは今綿密に計算しているところがございます。

檜山委員長

それから既に説明いただいたと思うのですが、現在、有明工業用水道の方で使用可能な流量がありまして、その中の余っている部分を使うということで良いのですよね。

事務局（総務経営課 丸山審議員）

この3 ページで言いますと、3 ページの右側、赤い枠で囲んだところということでざっくりと申し上げますと、有明工業用水道の水利権と言いますが、約 37,000 m³ほどございますが、このうち残念ながら実際に使っていない部分がおよそ 20,000 m³ほどあり、その 20,000 m³をそのまま使えば良いのですけれども、水を取る場所が今現在玉名地区にある白石頭首工、菊池川のずっと下流なのですが、最上流の竜門ダムから水を持ってこようとしているものですから、その 20,000 m³をまるまる取水できるのかということも含めて、今可能性調査の中で調査・検討をさせていただいています。

ですから、まずどれだけ水を持ってこることができるかということに加えまして、その

後既存の農業用パイプラインを使わせていただこうと思っているのですが、そのパイプラインの中を果たしてどれだけ通せるかといったところも含めまして、今検討させていただいているというところでございます。

檜山委員長

そういう理由で農水省とか国交省とか色んなところと関わりがあるということですね。

それから「外部委託で配管ルートや浄水場、用地等諸条件の設定」や「建設投資額と維持管理費の大まかな試算」の部分は既に終わって、現在は採算性の確保等といったことについて検討されていると思えばよろしいのですよね。

事務局（総務経営課 丸山審議員）

今お話のありましたのは、4ページの中ほどの6つの点についてですけれども、配管ルートや浄水場等の条件の設定ですとか、そういった維持管理費等の大まかな試算というところですが、これについてはまだ現在も色々とやっているところです。

先程申し上げましたように既存の農業用パイプラインを使うこと、そして配管に余裕があるかということは今確認しています。末端に行けば行くほど配管が小さくなっている等、色々と調べていく中で事実として分かってきました。出来るだけ末端の方から分水したいとは思っているのですが、必ずそうなるかということも今検討しているところでして、場合によっては当初想定していたよりも上流の方から分水するという形になってまいりますと、それに伴って、企業まで持っていく配管の長さが当初よりも長くなる等、色々な条件の変化があるという気もしておりますので、その点を総合的に、綿密に計算させていただいているというところでございます。

檜山委員長

でも最終的には色々な準備が終わって、実際にものを作るとなるとやはり経費がかかって、この新聞記事によりますと150億円くらいかかると記載されていますが、この経費についてはどのように手当をされるのかということについて何か現在考えておられることがありましたら教えていただきたいと思います。

事務局（総務経営課 丸山審議員）

報道等で既に御承知ということでございますが、この150億円も精度という意味ではざっくりしているところではございますけれども、申し上げましたように、大部分は浄水場あるいは排水処理の施設といった構築物を作ることやそれに伴う電気工事、あるいは機械を色々と導入しないといけないということで、そういった工事がやはり大半を占めています。

あともう1点大きいのは管路の工事です。管路の工事と言いますのは、浄水場から想定される給水先まで持っていくということで、先程少し触れましたけれども、我々が当初想定していたよりも管の末端の管径が小さいということも分かってまいりました。

そうした点を踏まえますと、やはり当初の想定よりも少し上流の方から分水した方が良いのか等といった点も含め、諸々積み上げていったところで、現状は燃油高騰や人件費高

騰等といった逆風の部分もあるものですから、そうしたところも加味したところでコンサルの方に委託して計算してもらった結果、こうした金額になったという状況でございます。

どのようにして手当てするかというところですが、もちろん県の自前の財源だけでは非常に厳しいものですから、今現在、国の経済産業省の方に、要望活動等も行わせていただき、補助事業ということで補助金を活用させてもらえないかといったところを含めまして、要望を行っております。

もちろん今現在まだ決まっておられませんけれども、給水先の方からいわゆる利用料金という形で頂戴するというので、今後長いスパンである程度考えていかなければいけないものですから、当初足りない部分は起債あたりで対応させていただければと考えております。

今後事業費及び事業のあり方を詰めていく中で、採算性というところも含めまして、総合的に検討していきたいと思っております。

檜山委員長

どうもありがとうございました。私の方からは以上ですが、委員の皆様から何か追加で御意見・御質問等ございませんでしょうか。

あと、企業局とは直接関わりはないと思いますが、熊本県として地下水の保全は非常に大事だということで色々取り組まれていると思うのですが、例えばある企業が勝手に地下水を取水して使おうとしたときに何らかの許可等は必要なのか、勝手に汲み上げて使って良いのか、そういったことについて全く知らないの、教えていただけますでしょうか。

事務局（竹田企業局長）

地下水に関しましては、井戸を掘って地下水を汲み上げることになりますけれども、井戸の口径によって届出等が必要になってまいります。

それと、どこで汲み上げるかということで、重点地区というものが決められておまして、熊本市を中心とした熊本都市圏、今JASMが建設している菊陽町も重点地区に入っております、重点地区に入っているところは、地下水を汲み上げる量の10%相当は地下水涵養のための何らかのサポートをすることになっております。

そのため、白川中流域、大津や菊陽の使っていない田んぼに水を送り、そこから地下水に浸透するといった、農家がされる行為に対して負担金的な形で企業はお金を払って、地下水涵養を図るというような状況でございます。

ただ、半導体関連産業といっても色々な業態・業種がございまして、特に今建設しておりますJASMさんや、その傍にありますSONY、東京エレクトロンが、半導体の製造過程においてきれいな水で洗わなければならないということで大量の水が使われる。そういった企業が今集中しており、さらに今度はSONYさんの2つ目の工場や、TSMCも2番目の国内工場をまた熊本でという話もありますので、そういった動きも捉えて県の環境部局の方では地下水の涵養を取水量の10%相当としているところを、100%相当まで引き上げようという手続きを今検討中ということで聞いております。

今のJASMさんが日量12,000 m³を汲み上げようとする計画なのですが、実際には40,000 m³使われるということで、そのうち7割はリサイクルして3割を捨てる、その3割

が 40,000 m³×3割で 12,000 m³ですから、その分は日々補給しなければならないので、汲み上げているという状況です。

新たに立地される企業にはリサイクル率を上げてもらい、地下水を汲み上げる量を少しでも減らしたうえで、取水する分については涵養に対して協力するようにします。

県としては地下水以外の水源というものもやはり準備しておかなければいけないということで、今回我々が権利を持っているけれども使っていない水をどうにか持ってくるということで、地下水保全に向けてはその3本柱で、少しでも量を減らしてもらう、取る分については涵養してもらう、県としても別水源の方を準備するという形で今進めているというところでございます。

檜山委員長

細かい話なのですが、使用量に応じて企業が何らかの支払いをするということはないのですか。

事務局（竹田企業局長）

地下水を汲み上げた量に関しましては、いわゆる税金的な形での徴収はしていないところです。この前の6月県議会でも地下水税みたいなものを創設してはどうかという話もございましたが、今のところは徴収しておりません。

その代わりに、重点地区で地下水を汲み上げる企業におかれては、地下水涵養に関して協力金を出してもらうというような形になっております。

檜山委員長

どうもありがとうございました。

城後委員

すみません。JASMさんの半導体を洗う水に対しての話ばかりなのですが、先程竹田局長がおっしゃったように、使った後に排水された水に対する安全性のチェック等は県の方できちっとされているのですか。

事務局（竹田企業局長）

まずSONYさんや東京エレクトロンさんもそうですけれども、工場で使った水、いわゆる捨てる水は公共下水道につないで、県が運営しております流域下水道、熊本市の鶴羽田にありますけれども、そこの処理場に行って川に放流されるという水の流れになっております。

それぞれ法律に基準があって、工場から下水道の管に入れるときに、いわゆる重金属等といったものは下水処理場ではなかなか取れないので、下水処理場に送って良い基準というものがございます。

ですから有害物質等は工場ですべて取ってくださいというのが法律のつくりになっております。そして下水処理場で処理できるような汚濁物については、処理場で処理して一般水域である河川に流すという形になります。

工場から下水道に流すところは、それぞれの企業で管理をされていますけれども、そこにつきましては市町村の、JASMさんなら菊陽町の下水道担当が監視をするという体制になっておりますし、下水処理場で処理された水は、県の方で川に流れる直前に監視をしています。熊本市は河川の水について調査をします。

今、新聞報道で言われておりますPFASやPFOS等といった、いわゆる有機フッ素化合物が環境基準には定められていないというところがありまして、それにつきましては、今日の熊日にも載っていたと思いますけれども、環境基準ではなく、多分人体に有害になるであろうという目安の数字を国がようやく出しまして、その50ナノグラムという量を超えているということが、白川の九品寺あたりと植木あたりの地下水で確認されたらと熊本市の調査で分かっております。

県としましても、今年度、原水の近くに観測井戸を掘りまして、まだJASMさんが操業する前の地下水の状況、それも環境基準として決まっていらないあらゆる項目を調べて、現状ではどういうものがどれくらい入っているのかということ調査しながら、工場が稼働した後も継続的に地下水の状況を確認するということをやろうとしています。

城後委員

ありがとうございます。巷では使われた水は坪井川に流されて、それが有明海の方に流れるのだということを知っていて、やはり熊本は水俣病のような色々な問題が起こっているから、今から子供を育てようと思っていらっしゃる若い女性の方達が、今局長が説明されたように、「安心なんだよ。」「安心して大丈夫なんですよ。」といった報道をきちっとされていかれた方が良くと思いますので、よろしく願いいたします。

檜山委員長

その他の委員の皆様から御意見等ございませんでしょうか。

本日は議題2件と報告事項1件ということで、長時間にわたり大変お疲れ様でした。

これで、本日予定していましたが議事は全て終了いたしましたので、マイクを事務局の方にお返ししたいと思います。よろしく願いいたします。

5 閉会

司会（事務局：米田政策調整審議員）

檜山委員長、議事の進行、誠にありがとうございました。

また、委員の皆様からは貴重な御意見や御助言を頂き、誠にありがとうございました。

本日は時間も限られており、会議の中で御発言いただけなかった内容もあるかと思いません。追加での御意見・御質問等がございましたら、事務局の方におっしゃっていただければと思います。

本日頂きました御意見等を踏まえながら、令和4年度の実績評価や今後の事業展開、アクションプランⅡの内容に反映させていきたいと考えております。

なお、次回につきましては、来年1月頃にアクションプランⅡの案及び新規工業用水道事業についてお諮りしたいと考えておりますので、委員の皆様におかれましては、引き続き

き御助言等を賜りますようお願いいたします。

最後になりますが、その他、委員の皆様から何かございますでしょうか。

それではこれもちまして本日の委員会を終了いたします。

長時間にわたりありがとうございました。

(1時間32分)